

常陸大宮市有形文化財

美和地域氷之沢地区で発見された

しゃ か によ らい ざ ぞう

「木造 釈迦如来坐像」が 新たに指定されました！



寸法 総高75.3cm
最大幅 53.6cm
最大奥行 41.6cm
製作年代 寛文13年(西暦1673年)



文化財は、地域の歴史や文化の成り立ちを理解するうえで欠くことのできない貴重な歴史的財産で、将来の文化の向上・発展の基礎をなすものです。市教育委員会では、これらの文化財の中でも特に重要なものを指定し、その保護に努めています。

4月25日、「木造 釈迦如来坐像」(一躯)が新たに有形文化財として指定されましたので紹介します。

釈迦如来とは仏教の開祖釈迦、いわゆる「おしゃかさま」を仏として敬う呼び方で、仏教各派で信仰の対象となっていて、その像は寺院などで大切に守り伝えられています。

この釈迦如来坐像は平成20年に歴史民俗資料館が行った祭礼調査の際に氷之沢地区の元沢集落にある、古びたお堂で偶然発見されたものです。

このお堂には地域の祭礼である六字様関連の道具が収納されていて、長年のほこりに埋もれていたこの釈迦如来坐像について知る人は誰もいませんでした。お堂は周囲の高い湿気により床が抜け、壁も朽ち始めていて、釈迦如来坐像も一部は朽ち、虫穴が開くなど激しく傷んでいました。そこでお堂の管理者のご理解を得て資料館で預り、清掃と殺虫の応急処置が即日施されました。

後日、仏像の専門家に鑑定を依頼したところ、作風は地方仏師のものではなく、京風の正統仏師の作と見られ、江戸時代初期の基準例と位置付けられる大変貴重な仏像であることが判明しました。

しかし、地区で修復することは困難であるため、地区の皆さんの話し合いにより、資料館へ寄贈されることとなりました。そして平成22年度に仏師による修復措置が施され、釈迦如来坐像は現代へとよみがえり、有形文化財指定に至ったのです。

私たちの暮らす常陸大宮市には、悠久の歴史と文化に培われた誇れるものがたくさんあり、その一つ一つがかけがえのない輝きを持つ郷土の財産です。



▲発見当時の様子

かつて氷之沢地区で信仰のよりどころとなり、多くの方が手を合わせたこの釈迦如来坐像も、常陸大宮市の誇れるものの一つです。こうしてよみがえり、有形文化財に指定されたのは、地区の皆さんのご理解とご協力のおかげです。

時代の移り変わりのなかでは、様々なものが人知れず消えていってしまふものですが、先人たちの残したもののから学ぶべきところは数多くあります。これらを守り未来に伝えていくことは、現代を生きる私たちの責務であり、文化財保護行政の重要な使命です。今後とも市民の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願ひします。

※現在は歴史民俗資料館大宮館に展示されています。

歴史民俗資料館大宮館

☎ 52-1450